

第二期

相生市国民健康保険データヘルス計画

中間評価

令和3年3月

相生市

(相生市国民健康保険)

目次

はじめに	1
1 特定健康診査事業	2
2 特定保健指導事業	4
3 糖尿病、腎症の重症化 予防事業	6
4 健康診査の充実事業	8
5 骨粗鬆症検診	10
6 健康づくり事業	12
7 介護予防対策事業	14
8 ジェネリック医薬品差額通知事業	16
9 服薬情報通知事業	18
10 医療費適正化対策事業	20

はじめに

令和2年度は、第2期データヘルス計画の中間評価・見直しの年度となっています。データヘルス計画の中間評価・見直しを行う目的は、立案した計画が軌道に乗っているかを確認し、計画が滞っている場合は、事業効果を高めるための改善策等を検討し、目標達成に向けての方向性を見出すことにあります。

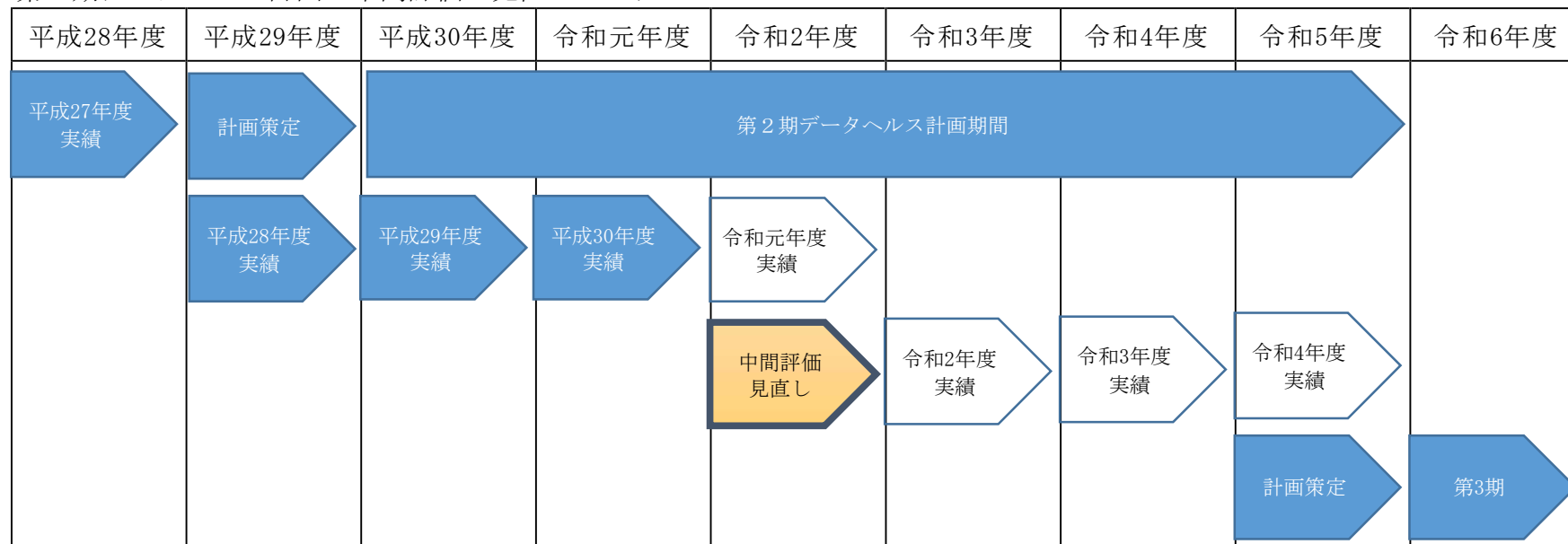
中間評価・見直しにあたり、データヘルス計画全体としての評価を行うため、データヘルス計画を構成する個別保健事業計画に基づいて実施された事業の実績等を振り返り、計画の目的・目標の達成状況・指標の在り方について、データ分析等をもとに整理、評価を行います。

評価の結果、目標達成が困難と見込まれる事業については、課題や目標達成を阻害する要因を分析し、改善方法を検討の上、必要に応じて実施内容等の見直しを行います。

評価のなかで、「指標判定」「事業判定」については、A～Dの4つの区分により判定します。

※判定区分 A：達成できている B：達成できていない・改善が必要 C：事業継続が困難 D：評価不能

第2期データヘルス計画の中間評価・見直しのスケジュール



1 特定健康診査事業

事業内容（現状）

<p>目的</p>	<p>生活習慣病の発症予防・早期発見</p>
<p>具体的内容</p>	<p><集団健診>※子育て元気課 ・申込み用紙を全戸配布し、扶桑電通なぎさホールをはじめ各地域において全13日間実施。また全日程で、がん検診、骨粗鬆症検診、ABC検診などを同日実施とし、土日開催も行っている。</p> <p><個別健診>※市民課 ・対象者に受診券を送付し、市内医療機関において実施(9～2月)</p> <p><人間ドック>※市民課 ・申込者(定員あり)に受診券を送付し、市内医療機関において実施(9～2月)脳ドック、骨密度検診、前立腺がん検診を同日実施。</p> <p>【実施内容】 ・継続的な受診や若い世代の受診率の向上を目的とし、受診券送付の際に世代に合ったパンフレットや継続受診を促すパンフレットを同封する。 ・受診しやすい体制整備を目的とし、人間ドックの受診希望者のニーズに沿うような定員の見直しを行う。 ・未受診者に対し、健診の必要性が認識できるよう受診行動につながる勧奨を実施し、受診率の向上を図る。</p>
<p>評価指標 目標値</p>	<p>【アウトプット】 対象者への通知率 100%</p> <p>【アウトカム】 対象者への特定健康診査受診率 15% 特定健康診査受診率 60%</p>

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン	経年変化	指標判定	事業判定	要因 (うまくいった・うまくいかなかった要因)	見直しと改善の案
特定健康 診査事業	特定健診受 診率	特定健診 受診率 60%	平成28 年度 44.8%	平成29年度 43.5% 平成30年度 42.3% 令和元年度 42.6%	B	B	<p>【うまくいった要因】</p> <p><集団健診></p> <ul style="list-style-type: none"> ・申し込み用紙の全戸配布及び、他事業を通して周知を行った。がん検診とセット受診ができるよう利便性を図った。 ・国民健康保険、後期高齢者医療保険加入者は無料で受診できる環境を整えた。 <p><個別健診></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者に受診券を送付し、市内各医療機関で受診できるよう医療機関と連携を図った。 <p><人間ドック></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者（定員あり）に受診券を送付し、市内各医療機関で受診できるよう医療機関と連携を図った。 ・脳ドック、骨密度検診、前立腺がん検診を同日受診可能とした。 <p>【うまくいかなかった要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診の重要性の啓発が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団健診の実施期間内に受診できなかった対象者に対して救済手段を検討する。 ・未受診者勧奨の充実を検討する。

2 特定保健指導事業

事業内容（現状）

<p>目的</p>	<p>生活習慣の改善を促し生活習慣病を予防</p>
<p>具体的内容</p>	<p><集団健診> <ul style="list-style-type: none"> ・動機付け、積極的支援ともに初回面接時に健診結果の返却や訪問等を取り入れ、保健指導対象者が受けやすい体制を整備している。 ・健診当日、保健指導対象候補者に対して保健指導を実施し初回面接への意識付けを行う。 ・意識改善を目的としておなかすっきり教室を実施。 <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的支援を業者委託実施。 ・教室を継続的支援の機会となるよう見直す。 <p><個別健診・人間ドック> <ul style="list-style-type: none"> ・動機付け、積極的支援ともに委託実施。健診受診後、結果により、保健指導対象者に約4か月後に利用券を送付している。 <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健指導の基準値に対して医療機関と共通理解を図り、健診結果より医療機関から協力を得て、保健指導の勧奨を促し、意識付けを行う。対象者に対し、電話勧奨等積極的な働きかけを行う。 </p></p>
<p>評価指標 目標値</p>	<p>【アウトプット】 対象者への指導実施率 60%以上</p> <p>【アウトカム】 指導完了者の生活習慣改善率 60% 積極的支援及び動機付け支援対象者 25%以上減少</p>

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン	経年変化	指標判定	事業判定	要因 (うまくいった・うまくいかなかった要因)	見直しと改善の案
特定保健指導事業	保健指導実施率	60%	平成28年度 46.3%	平成29年度 38.6% 平成30年度 44.4% 令和元年度 45.8%	B	B	<p>【うまくいった要因】</p> <p><集団健診></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診当日に初回面接を実施することで、対象者が保健指導を受けやすい体制となり、受診率が増加した。 ・おなかスッキリ教室を集団と個別の両方で実施したため、対象者が参加しやすくなったと好評だった。 <p><個別健診・人間ドック></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内医療機関へ実施を委託することで健診を受診した医療機関で保健指導を実施できるようにしている。 <p>【うまくいかなかった要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単年での保健指導は完了しているが、食生活等の改善が見られず毎年保健指導の対象者となっている方がいる。 ・個別健診・人間ドックについては健診受診から約4か月後に利用券を発送することもあって、利用率が伸び悩んでいる。 	<p><集団健診></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年保健指導の対象となっている方に対する保健指導方法を検討する。 <p><個別健診・人間ドック></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健指導の利用勧奨を検討する。

3 糖尿病、腎症の重症化 予防事業

事業内容（現状）

<p>目 的</p>	<p>治療必要者の重症化予防</p>
<p>具体的内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定健康診査の検査値とレセプトデータから対象者を特定し、専門職より対象者に面談指導を行う。 【実施内容】 ・ 階層化したフローチャートで要医療となっている重症化リスクの高い者に対し保健指導を行う。また医療機関との共通理解のもと医療につなげ、以下のとおり重症化予防を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①H28健診結果より健診後の状況確認 ・ HbA1c6.5以上の医療機関未受診者に対し郵送にて医療機関受診勧奨を行う。受診状況の報告により必要に応じて保健指導を行う。 ②-1)3疾患治療中でHbA1c7.0以上の者 <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団健診当日に医療機関受診状況を確認し、治療中断であれば治療再開勧奨、治療中であれば医療機関での管理継続及び保健指導実施。 ・ 個別健診、人間ドックでは医師より指導実施。未実施の医療機関に関しては、対象者に保健指導の意識付けを行う内容の案内文を送付する。 ②-2)3疾患治療なしでHbA1c6.5以上の者 <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団健診当日に医療機関受診勧奨後の状況確認を行い、保健指導実施。 ・ 個別、人間ドックでは医師の判断により医療機関受診勧奨及び保健指導実施。未実施の医療機関に関しては、対象者に保健指導の意識付けを行う内容の案内文を送付する。 ③H29健診結果より ・ HbA1c8.0以上の者に対し、健診結果返却と同時に保健指導を実施。
<p>評価指標 目標値</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【アウトプット】 対象者に応じた①～③の取り組みを行う（実施率） 100% 【アウトカム】 階層化したフローチャートにおけるHbA1c7.0以上の人数の減少

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン	経年変化	指標判定	事業判定	要因 (うまくいった・うまくいかなかった要因)	見直しと改善の案
糖尿病、腎症の重症化予防事業	HbA1c7.0以上の人数	HbA1c7.0以上の人数の減少	平成28年度 95名	平成29年度 62名 平成30年度 87名 令和元年度 94名	B	B	<p>【うまくいった要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師会や医療機関と連携をとりながら実施できるようにしている。 <p>【うまくいかなかった要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受診勧奨は実施できたが、医療機関の受診拒否者への対応ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関の受診拒否者は、その後も医療機関の受診はなく、健診も未受診の場合が多いため、放置後重症化する恐れがある。まずは健診の受診勧奨をしていく。 ・現在未受診者対策のみのため、今後糖尿病性腎症も含めた個別の重症化予防に取り組む。

4 健康診査の充実事業（肺がん検診、胃がん検診、大腸がん検診、前立腺がん検診、子宮がん検診、乳がん検診）

事業内容（現状）

<p>目 的</p>	<p>がん死亡率の減少</p>
<p>具体的内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・肺、胃、大腸、前立腺がん検診、肝炎ウイルス検診は集団健診の際に同時実施。 ・子宮、乳がん検診は各医療機関にて実施。 <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子宮がん検診を集団健診においても同時実施し、また個別検診としての受診医療機関の拡大も行う。 ・女性がん検診について節目年齢者へ個別受診勧奨を行う。
<p>評価指標 目標値</p>	<p>【アウトプット】 受診勧奨実施率 100%</p> <p>【アウトカム】 がん検診受診率 肺がん30% 胃がん20% 大腸がん25% 前立腺がん25% 子宮がん20% 乳がん25%</p>

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン	経年変化	指標判定	事業判定	要因 (うまくいった・うまくいかなかった要因)	見直しと改善の案
健康診査の充実事業 ・肺がん検診 ・胃がん検診 ・大腸がん検診 ・前立腺がん検診 ・子宮がん検診 ・乳がん検診	肺がん検診受診率	30%	平成28年度 25.9%	平成30年度 22.7% 令和元年度 21.4%	B	B	<p>【うまくいった要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申し込み用紙を全戸配布したり、他事業を通して周知を行った。特定健診とセット検診ができるよう利便性を図った。 ・「新たなステージに入ったがん検診推進事業」として、一定年齢の女性市民に子宮がん、乳がん検診の無料クーポン券を配布し受診勧奨を行った。未利用者には、年度途中で再勧奨を行い、受診を促した。 ・41歳の者に疾病や検診への意識を高めるため肺がん、胃がん、大腸がん検診を無料で受診できる環境を整えた。 ・国民健康保険、後期高齢者医療保険加入者の方は、無料で受診できる環境を整えた。 <p>【うまくいかなかった要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検診の重要性の啓発・周知が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して、「新たなステージに入ったがん検診推進事業」を実施し、対象者へ無料クーポン券を配布し、受診勧奨を行う。 ・新型コロナウイルス感染症への感染の懸念により受診を控える方を防ぐため、案内通知の見直しを行う。
	胃がん検診受診率	20%	平成28年度 13.1%	平成30年度 11.7% 令和元年度 11.0%	B	B		
	大腸がん検診受診率	25%	平成28年度 23.5%	平成30年度 20.1% 令和元年度 19.6%	B	B		
	前立腺がん検診受診率	25%	平成28年度 21.6%	平成30年度 18.4% 令和元年度 18.8%	B	B		
	子宮がん検診受診率	20%	平成28年度 12.3%	平成30年度 12.0% 令和元年度 13.1%	B	B		
	乳がん検診受診率	25%	平成28年度 19.7%	平成30年度 13.9% 令和元年度 15.3%	B	B		

5 骨粗鬆症検診

事業内容（現状）

目的	骨粗鬆症の予防
具体的内容	<ul style="list-style-type: none">・ 集団健診で同時実施。・ 節目年齢の女性は各医療機関で受診可。 <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 骨粗鬆症検診について節目年齢者へ個別受診勧奨を行う。
評価指標 目標値	<p>【アウトプット】 受診勧奨実施率 100%</p> <p>【アウトカム】 受診率向上</p>

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン	経年変化	指標判定	事業判定	要因 (うまくいった・うまくいかなかった要因)	見直しと改善の案
骨粗鬆症 検診	骨粗鬆症 検診受診率	受診率向上	平成28 年度 受診率 24.36%	平成30年度 20.4% 令和元年度 14.4%	B	B	【うまくいかなかった要因】 ・検診の受診方法の周知が不足している。	・検診の受診方法の周知を検討する。

6 健康づくり事業

事業内容（現状）

目的	健康意識の向上
具体的内容	<ul style="list-style-type: none">・健康チェックコーナー実施(骨量測定等)、8020(歯科)表彰(健康フェアにて開催)・市民要望講座・市広報あいおい、ホームページ・健康ポイント制度・いずみ会(食生活改善普及推進委員)と連携 <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・「ちょっと実行、ずっと健康」をキャッチフレーズに、気軽に参加できるようポイントカードの様式を変更する。・健康ポイント制度について、新たに乳幼児健診や子育て広場など普及啓発の機会を捉えて若い世代へ参加勧奨する。
評価指標 目標値	<p>【アウトプット】 健康ポイントカードの配布 全戸配布</p> <p>【アウトカム】 健康ポイント制度応募者数 前年度実績以上</p>

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン	経年変化	指標判定	事業判定	要因 (うまくいった・うまくいかなかった要因)	見直しと改善の案
健康づくり事業	健康ポイント制度応募者数	健康ポイント制度応募者数は前年度実績以上	健康ポイント制度応募者101名	平成30年度 169名 令和元年度 269名	A	A	<p>【うまくいった要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他事業時にポイントカードの配布やPRを実施したり、市内の商店や関係機関等を巻き込み、ポイントカードの設置やポスターの掲示を依頼し、広く周知することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・応募者の大半が、60代以上であるため、幅広い年齢層に利用してもらえるよう、周知方法等についてさらに検討していく。

7 介護予防対策事業

事業内容（現状）

<p>目的</p>	<p>介護予防意識の向上</p>
<p>具体的内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防手帳の配布 ・いきいき百歳体操(各地域にて自主活動)の普及啓発、支援実施 ・介護予防推進講座 ・健康大学講座(医師会と共催で各専門医による) ・市民要望講座(保健師、管理栄養士による) ・訪問指導(保健師・管理栄養士による) <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきいき百歳体操の活動グループ数は順調に増えているが未実施の地域もあるため、多くの市民が身近な場所で参加できる環境となるよう情報発信や周知啓発を検討する。 ・介護予防推進講座の新たな参加者の発掘のため周知方法の検討。また講座受講後の地域活動について少しでもつながっていけるよう内容を充実させる。
<p>評価指標 目標値</p>	<p>【アウトプット】 事業参加者数</p> <p>【アウトカム】 いきいき百歳体操活動グループ数 60グループ</p>

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン	経年変化	指標判定	事業判定	要因 (うまくいった・うまくいかなかった要因)	見直しと改善の案
介護予防対策事業	事業参加者数	いきいき百歳体操活動 54グループ	38グループ	平成30年度 41グループ 令和元年度 42グループ	B	B	【うまくいかなかった要因】 ・新規立ち上げグループもあったが、解散、合併するグループもあり、目標値には届かなかった。	・継続グループが今後も地域で活動を続けていけるような支援を検討していく必要がある。また、新規グループ立ち上げのキーパーソンとなり得る人、団体等への積極的な働きかけも行っていく。
		介護予防推進講座 180名	延べ 450名	平成30年度 264名 令和元年度 779名	B	B	【うまくいった要因】 ・実施方法を従来の呼び込み方式から、既存の通いの場に訪問する形に変更したことで、より多くの方に講座を受講してもらうことができた。	・今後も既存の団体と連携し、継続的に介護予防の推進を図っていく。
		健康大学講座 現状維持	延べ 2,300名	平成30年度 2,217名 令和元年度 2,291名	B	B	【うまくいった要因】 ・市民の関心が高く、より身近な内容を講座のテーマに取り入れるなど、講座内容を毎年更新していくことで、一定数の受講者を確保できている。	・新規受講者が取り込めるよう、講座内容や周知方法を検討していく。
		市民要望講座 現状維持	延べ 435名	平成30年度 140名 令和元年度 10名	B	B	【うまくいかなかった要因】 ・周知不足からか、市民からの要望自体が少なかった。	・講座の実施について周知を図り、要望があった際には職員の派遣ができるよう体制を整えておく。

8 ジェネリック医薬品差額通知事業

事業内容（現状）

目的	ジェネリック医薬品利用促進・自己負担軽減
具体的内容	<ul style="list-style-type: none">・ジェネリック医薬品に切替えた場合の自己負担軽減額を年3回通知 <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・ジェネリック医薬品に切替えた場合の自己負担軽減額を年3回通知
評価指標 目標値	<p>【アウトプット】 対象者への通知率 100%</p> <p>【アウトカム】 ジェネリック医薬品普及率(数量ベース) 80%</p>

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン	経年変化	指標判定	事業判定	要因 (うまくいった・うまくいかなかった要因)	見直しと改善の案
ジェネリック医薬品差額通知事業	ジェネリック医薬品利用率	80%	平成28年度 63.3%	平成29年度 68.5% 平成30年度 71.2% 令和元年度 72.7%	B	B	<p>【うまくいっている要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通知發送対象者は年々減少傾向にあり、ジェネリック医薬品への切替えが進んでる。 ・通知に加え、保険証一斉更新の際、保険証にジェネリック医薬品希望シールを同封し切替えを進めている。 <p>【うまくいっていない要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定数、先発医薬品を希望する被保険者がおり、ジェネリック医薬品への切替えが進んでいない。(通知の効果が薄い。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・切替えを進めるにあたり、チラシ及び広報紙によるジェネリック医薬品の認知率向上を図る。特に、ジェネリック医薬品の安全性に疑問を持つ被保険者に対し、安全性を説明する内容のチラシを用意し、窓口への配置や市のイベント(健康ポイント制度事業など)で配布を行う。

9 服薬情報通知事業

事業内容（現状）

目的	服薬の適正化
具体的内容	<ul style="list-style-type: none">レセプトデータから、長期多剤服薬者を特定し通知書を送付する。また、通知後のレセプトデータから効果を確認する。 <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none">対象者を特定し、服薬情報通知書を発送する。通知後に対象者の服薬状況が適正となっているかを確認する。
評価指標 目標値	<p>【アウトプット】 対象者の通知率 100%</p> <p>【アウトカム】 長期多剤服薬者割合 10%減少</p>

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン	経年変化	指標判定	事業判定	要因 (うまくいった・うまくいかなかった要因)	見直しと改善の案
服薬情報通知事業	対象者への通知率	100%	—	令和元年度 0人	D	D	<p>【うまくいっていない要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導対象者がいないため通知できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導対象者の抽出条件の見直しを検討する。

10 医療費適正化対策事業

事業内容（現状）

目的	医療費通知の充実
具体的内容	<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関受診者に対して、年6回通知 【実施内容】 <ul style="list-style-type: none">・ 医療機関受診者に対して、年6回通知
評価指標 目標値	【アウトプット】 医療費通知実施率 100% 【アウトカム】 医療費通知実施率 100%

評価と見直し・改善案

事業名	評価指標 (アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン	経年変化	指標 判定	事業 判定	要因 (うまくいった・うまくいかなかった 要因)	見直しと改善の案
医療費適 正化対策 事業	医療費通知 実施率	100%	100%	平成30年度 6回 令和元年度 6回	A	A	<p>【うまくいった要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療費通知を税申告の医療費控除の書類として使用することができるため、確定申告に間に合うように送付した。 <p>【うまくいかなかった要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療費通知を年間約2万通送付しているが、この通知がどの程度、自身の健康状態や医療費の支出等に関する知識の向上につながったのかを数値的な結果で判断することは困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の見直しについては、現状維持とする。